

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2024 年 9 月 19 日 (木) 3 限 実施

第 2 回 考 査

千葉県立佐倉高等学校 第 3 学 年 選 択 者

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 問題中の【CG】は「知識・技能」を、【SHH】は「思考・判断・表現」を評価することを示している。
- 5 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 6 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 資料1を見ている高校生AとBが交わした次の会話を読み、後の問いに答えよ。(配点20)



資料 1

A：この絵はシステイーナ礼拝堂の天井壁画だね。

B：ミケランジェロが旧約聖書の [1] をテーマに描いた作品の一つだよ。

A：人間は [2] として神に創造されたから、地上の生物の支配者なんだね。

B：しかし、この男女が神に禁じられた木の実を食べて以来、人間は [3] を持つようになったというね。

A：人間という存在の二面性が旧約聖書には描かれているわけか。

B：さらに、この作品では左右で罪と罰が対比されているところが面白いね。

A：二人は楽園を追放されただけでなく、罰として [4] の運命が与えられたそうだね。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [4] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。【CG】

- [1]

① 創世記	② 民数記
③ 申命記	④ 出エジプト記

- [2]

① エデンの王	② 創造主
③ 大地の子	④ 神の似姿

- [3]

① 意識	② 自由
③ 原罪	④ 権利

- [4]

① 死	② 病
③ 生	④ 老

問2 次のクルアーン（コーラン）の記述を読み、文中の空欄 [5] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。【CG】

「神はすなわち [5] の子救世主である」などと言う者は無信の徒。メシアが自ら（つぎのように）断言しておるのではないか、「これイスラエルの子ら、わが主にして汝らの主なるアッラーに仕えまつれ。まことにアッラーとならべて他の何者でも崇めるような者には、アッラーが樂園を禁断の地となし給う。落ち行く先は（地獄の）劫火。神というからにはただ独りの神しかありはせぬはず。あのようなことを言うのをやめないと、無信の徒は、やがて苦しい天罰を蒙ろうぞ。…… [5] の子救世主はただの使徒にすぎぬ。彼以前にも使徒は何人も出た。また彼の母もただの正直な女であつたに過ぎぬ。二人ともものを食う（ふつうの人間）であつた。見よ（ムハンマドに対する呼びかけ）、こうして色々と神兆を説明してやっても、よく見るがよい、彼らはああして背いていく。

- [5]

[①	ムハンマド	②	ムーサー（モーセ）
	③	イーサー（イエス）	④	マルヤム（マリア）

問3 イエスの活動に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。
[6] 【SHH】

- ① すべての人に平等にそそがれる、神の無条件の愛であるアガペーと、それに基づく積極的な隣人愛を説いた。
- ② 弟子たちとともに町や村を巡り歩き、当時の社会で罪人とされていた人々と交わり、病氣の人々を癒した。
- ③ 神の公平と正義が実現される神の国の到来が近いことを、福音(喜ばしい知らせ)として人々に伝えた。
- ④ パプテスマのヨハネとともに活動し、ユダヤ人国家を独立させるべく、ローマ皇帝に対し武力による反乱を企てた。

問4パウロの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]
【SHH】

- ① 人間は、善を望んでいるはずなのに、望まない悪を行ってしまう。そこからの救済は、キリストへの信仰によるほかになく、人類全体の罪を担ったキリストに従い、私たちもまた、隣人への愛を実践すべきである。
- ② 人間は、善を望んでいるはずなのに、望まない悪を行ってしまう。そこからの救済は、キリストへの信仰によるほかになく、神と契約したキリストのように、私たちもまた、神との契約である律法を正しく遵守すべきである。
- ③ 人間は、肉体の情欲に引きずられ、望まない悪を行ってしまう。そこから救済されるためには、自らの運命を受け入れたキリストのように、私たちもまた、罪のない本来の自己を再発見し、それを受け入れるべきである。
- ④ 人間は、肉体の情欲に引きずられ、望まない悪を行ってしまう。そこから救済されるためには、苦しむ人々を癒したキリストに従い、私たちもまた、善行を積むことによって、神から義とされるよう努力すべきである。

問5 神と教会についてのアウグスティヌスの考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]【SHH】

- ① 教会が指導する聖書研究を通して信仰を深めることにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ② 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、教会は神の国と地上の国を仲介するものだと考えた。
- ③ 教会への寄進といった善行を積むことにより、神の恩寵を得ることができると考えた。
- ④ 人は神の恩寵によらなければ救われないと主張し、贖宥状の購入による救済を説いた教会の姿勢は間違っていると考えた。

問6 信仰と理性の関係についてのトマス・アクィナスの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9]【SHH】

- ① 信仰も理性も等しい価値をもつが、信仰によって得られる真理と、理性によって得られる真理とは異なると考え、両者を分離する二重真理説を説いた。
- ② 神が啓示した真理は、信仰によって受け入れられるものであり、この真理の理解には理性が必要であるため、信仰と理性は調和すると説いた。
- ③ 救済のために最も重要なのは愛であるが、信仰も理性も等しく愛の働きを支えると考え、信仰・理性・愛の三つの徳をもって生きることを説いた。
- ④ 人間の本性である理性と、万物を貫く理法は同一であるため、自然に従うことによって、その造り主である神への信仰にめざめると説いた。

問7 イスラーム教の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[10]【SHH】

- ① クルアーン(コーラン)は、ムハンマドと彼を取り巻く人々に下された神の啓示を、集録し、編纂したものとされる。
- ② イエスを救世主とみなすキリスト教の教えを継承し、ムハンマドを救世主として信じることは、六信の一つに数えられる。
- ③ 五行などの実践によって神への信仰を体現することだけでなく、天使の存在を信じることも信徒の義務であるとされる。
- ④ イスラーム教は、中東、東南アジアなどを中心に世界各地で信仰されており、少数派のスナナ派と多数派のシーア派に大別される。

第2問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 20)

宗教改革とルネサンスはいくつかの点で結びついている。ルネサンス人文主義が喚起した批判精神は、教会権威の検証を促し、聖書の原典批判をとおして、新たな宗教感情を生起させた。ルターやカルバンの改革をうけ入れた思想家のなかには、人文主義者が多数いたことが明らかである。

しかし他方では、ルネサンス思想家は、価値を相対化する感覚をもち、宗教改革のもつ [11] とあいいれず、対立を招いたという側面もある。ルターと人文主義者 [12] との相克はこの事例としてあげることができる。さらにルネサンスがイタリア都市の経済力や、ローマ教皇の権威を背景として繁栄したことから、これの支配をうける地方における反イタリア感情を引き起こし、ルネサンスへの否定的態度を生み出した。ルターの改革の緒となった贖宥状販売は、ルネサンスの精華ともいえる [13] の建設費用にあてられるべきものであったが、このいきさつは象徴的である。

問1 文章中の空欄 [11] ～ [13] に入る最も適切な語句を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[11] ①堅実な現実主義 ②敬虔な理想主義 ③敬虔な教皇主義 ④堅実な伝統主義

[12] ①エラスムス ②ボッカチオ ③ペトラルカ ④トマス・モア

[13] ①ピサの斜塔 ②サン・ピエトロ大聖堂 ③コロッセオ ④ウフィッツィ美術館

問2 16世紀はじめ、力量ある人物が権力を巧みに操って、道徳にとらわれず国家を統治すべきであると説いた思想家として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[14] 【CG】

① ブルーノ ② トマス・モア ③ ボシュエ ④ マキャヴェリ

問3 ルターの著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15] 【CG】

- ① 『痴愚神礼讃』
- ② 『キリスト者の自由』
- ③ 『キリスト教綱要』
- ④ 『人間の尊厳について』

問4 ルネサンス期に活躍した人物についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]【SHH】

- ① 壁画「最後の晚餐」などで知られるミケランジェロは、絵画や音楽といった分野だけでなく、医学や力学などの自然科学の分野でも業績を残し、万能人(普遍人)として活躍した。
- ② ダンテは、『神曲』のなかで、人間が神の愛によって祝福された存在であることを強調し、人間の魂を、欲望や罪、苦悩などとは無縁の美しいものとして描き出した。
- ③ ボッティチェリは、『デカメロン』のなかで、自由奔放に快楽を追い求める男女の性愛を生き生きと描き出すことで、人間の感情や欲望の解放を表現しようとした。
- ④ 壁画「アテネの学堂」でラファエロは、イデア論で知られるプラトンが天を指し、現実世界を重視したアリストテレスが地を示す姿を描くなど、古代哲学を象徴的に表現した。

問4 トマス・モアは、架空の島を舞台とした『ユートピア』を著したが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]【SHH】

- ① 国家の干渉を批判し、個人が自らの利益を追求することが社会全体の繁栄につながると主張している。
- ② 現実に対応できない統治者を批判し、国家の統治のためには道徳に反した行いも許されると主張している。
- ③ 土地所有者が農地の囲い込みをしている社会を批判し、私有財産制のない社会のあり方を示している。
- ④ 互いに争う人々を批判し、『旧約聖書』の怪物に譬えられる強大な権力をもった国家による支配を正当なものとして示している。

問5 宗教改革の始まりに大きな役割を果たしたのがルターである。ルターの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18]【SHH】

- ① 神の前ではすべてのキリスト者は平等であり、教会の権威によってではなく、自己の信仰心によって直接神と向き合う。そして、聖書のみがキリスト教の信仰のよりどころである。
- ② どの人間が救われるかは、神の意志によってあらかじめ定められており、各人が聖書の教えに従って、神への奉仕として世俗の職業生活に励むことが、救いの確証になり得る。
- ③ 聖書に説かれた信仰の真理と自然の光に基づく理性の真理とは区別されるが、両者は矛盾するのではなく、理性の真理が信仰の真理に従うことによって互いに補足し合い調和する。
- ④ キリスト者は、すべてのものの上に立つ自由な主人であって、誰にも従属していない。したがって、農民が教会や領主の支配に対抗して暴徒化することには十分な理由がある。

問5 プロテスタントイズムに関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[19] 【SHH】

- ① ルターによれば、キリスト者はみな等しく神の前に立つものであり、その観点からは、世俗の者も司祭である。
- ② カルヴァンによれば、神は救済される人間とそうでない人間とをあらかじめ決定しているが、人間はその決定を知ることはできない。
- ③ ルターによれば、救済のために必要なのは、教会が勧める善行や功德を積むことではなく、ただ神の恵みを信じることである。
- ④ カルヴァンによれば、現世での善行によっては救いを実現することができないので、現世の生活は積極的な意味をもたない。

問6 次の文中の [20] に入る人名として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。【SHH】

[20]によると、ピューリタニズムは、職業という世俗的活動を神の与えた使命ととらえて勤勉を命じ、節約と蓄積をなすべきとした。人間と神のあいだには絶対的な断絶があり、人間は神による救済の予定を知りえないが、それゆえにこそ、救いについての不安を和らげ救いの確信を得るために、神に与えられた使命すなわち職業に禁欲的に専念し、現世における神の栄光を増すよう不断の禁欲的努力をしなければならぬとするカルビニズムがその倫理をより強固にしたというのが [20] の有名な議論である。営利主義と合理主義は、資本主義経済以前における共同体内での慣習的な生産と消費の繰返しという伝統主義的な経済活動・生活態度を打ち破るものである。

- ① アダム・スミス ② マルクス ③ ウェーバー ④ ケインズ

第3問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 20)

天動説では宇宙の中心に地球を静止させ、その周りに [21], 太陽, 惑星そして恒星の天球が回転するとした基本構造を有することはよく知られている。ところが、もうひとつ見落としてはならぬ、そして自然科学の誕生の大きな障壁となった特徴がある。それは宇宙全体を、[21] の天球を境として、それより内側の地上界と外側の天上界に二分してしまったことである。二分したのは単に空間的な区分けだけでなく、それぞれの世界を構成する元素からそこで生起する運動まで、すべてにおいて地上界と天上界は峻別されていた。天動説における天上界では、星々が地球の周りを [22] 運動するのみであった。一方、地上界ではそうではなく、物体の落下や煙の上昇など上下の直線運動が、自然に営まれる運動であった。このように二つの領域では、自然運動の様態もまったく異なるものと考えられていた。

古代・中世の自然学から脱皮して近代科学が形成されていく歴史を考えると、その端緒として位置づけられているのが、1543年、コペルニクスが太陽中心説を世に問うた『[23]』であろう。しかし、かといって、コペルニクスの説が他より優れた精確な観測データに基づいて打ち立てられたわけでもなく、また、天体の運動や回転する地球上での運動を説明できる力学理論に依拠していたわけでもなかった。

そこに突破口を開いたのは、[24] である。16世紀末に蓄積された、当時としては精度の高いティコ・ブラーエの観測データをもとに、計算と試行錯誤を重ねた [24] は、惑星の運動に三つの法則が成り立つことを発見したのである。それによると、すべての惑星は太陽を焦点の一つとする楕円軌道上を運動し、太陽と惑星を結ぶ線分が同じ時間に描く扇形の面積は一定となる。つまり、惑星は太陽に近づくと速くなり、遠ざかると遅くなるのである。また、惑星の公転周期の2乗と楕円軌道の長径の3乗の比は一定になることも示された。

ここに初めて、古代・中世を通じ固定観念のごとく宇宙観に温存されてきた [22] 運動が否定されたのである。そして、観測に基づく惑星運動の定量的な規則性が明らかにされた。近代科学たるべき重要な条件がひとつ、確立されたわけである。

問1 文章中の空欄 [21] ~ [24] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[21] ① 月 ② 水星 ③ 火星 ④ 金星

[22] ① 等速円 ② 楕円 ③ 等速直線 ④ 等加速度直線

[23] ①天体力学 ②天文対話 ③天球の回転について ④哲学原理

[24] ① ブルーノ ② ニュートン ③ ケプラー ④ ガリレイ

問2 アリストテレスに始まる中世の自然観として最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。[25] 【CG】

①神話的自然観 ②機械論的自然観 ③数量的自然観 ④目的論的自然観

問3 ガリレイについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

[26] 【SHH】

- ① 天体観測によって得られた精密な観測値に基づき、惑星が楕円軌道を描くという法則を発見して、伝統的な宇宙観に変更を迫った。
- ② 地上の物体と天空の惑星は共通の法則に従っているとすると、万有引力の考えを打ち出し、機械論的自然観に道をひらいた。
- ③ 実験をもとに自由落下の法則を発見し、近代物理学の基礎を築く一方、地動説を支持したために、宗教裁判にかけられた。
- ④ 宇宙は無限に広がっているという説を唱えるなど、教会とは相容れない考えを提示したために、異端者として火刑に処された。

問4 ニュートンの「時間」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

[27] 【SHH】

- ① 時間は、運動の「前」と「後」という我々の知覚に基づいて数え上げられた数である。
- ② 時間は、身体リズムとして知覚され、それぞれの人によって異なった仕方で把握される。
- ③ 時間は、事物が運動していようが静止していようが、それとはかかわりなく均一に流れる。
- ④ 時間は、観察者と出来事との関係を示す一つの指標であり、時間の長さは観察者によって異なる。

問5 ユグノー戦争を回避するために努力したモンテーニュの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [28] 【SHH】

- ① 大きな宇宙は空間によって人間を包み、一つの点のように飲み込む。しかし、考えることによって、人間は宇宙を包む。そこに人間の偉大さがある。
- ② 人間の理性は不完全であり、絶対的真理を認識することはできない。人間は常に独断を差し控え、謙虚な態度で真理の探究を深めるべきである。
- ③ 一切のことを疑ったうえでもなお疑い得ないのは、そのように疑っている自我が存在していることであり、この自我の存在が哲学の基本原理である。
- ④ 現にいかに生きているかということ、いかに生きるべきかということとはかけ離れているから、現実を顧みない者は身の破滅を招くことになる。

問6 パスカルの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]

【SHH】

- ① 人間には外的なものから受ける影響で様々な情念が生じるが、人間は、自らの意志によってそれらの情念を支配し、自分の行動を決定していくことができる高邁の精神をもつと考えた。
- ② 考えることに人間の尊厳を見だし、特に、人間のあり方や事柄の本質を捉えるためには、推理や論証を行う能力だけではなく、直観的に物事を把握する能力が必要であるとした。
- ③ 人間にはその本性や感覚によって誤謬や錯覚が生じるが、実験と観察を通じて得られた知識によって、それらを取り除き、自然の一般的な法則を捉えることで、自然を支配できると考えた。
- ④ 自己自身を形成することに人間の尊厳を見だし、特に、人間が自分の生き方を選択し、自らの存在のあり方を決定するためには、各自の自由意志が必要であるとした。

問7 「気晴らし」についてのパスカルの考えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30] 【SHH】

- ① 人生で私たちが行う選択は賭けのように不確実であり、神の信仰に賭けることも、それ以上に不確実で、「気晴らし」以外の何ものでもない。
- ② 賭けや娯楽などの「気晴らし」は、孤独で不安に満ちた人生から目をそらさせてくれるが、ついには自分を見失わせてしまう。
- ③ 人間は、「気晴らし」の賭けで翻弄される生活を営むのではなく、神の存在を理性で証明することにより神への信仰に生きなければならない。
- ④ 人間の自由は必然性の洞察に従って行為することにあり、私たちは偶然性に左右される賭けで「気晴らし」をすべきではない。

第4問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 20)

F ベーコンの〈大革新〉のかなめは〈[31]を新しい発見と資財によって豊かにすること〉が学問の目標であるとする事である。したがって学問のための学問や名声を得るための学問を批判する。そのような新しい学問は、個人的天才によってではなく人類の共同作業であると彼は考えた。

そこで提案された方法は、独断論(合理論)と経験論をともに批判し、[32]と演繹の二つの道を総合する方法であった。したがってベーコンの立場はアリストテレス主義でもプラトン主義でもない、経験論と合理論を総合した新しい学問の立場であった。彼はこの方法に従ってみずから自然研究に従い、大著《大革新》に集大成しようとした。《大革新》の第1部をなすのは《学問の尊厳と進歩》で、これは独自の基準によって学問分類を行い、当時の学問を概観すると同時に、あるべき学問についても示したものである。すなわち学問を人間の持つ三つの知的能力、記憶・想像・理性に対応させて大きく[33]・詩・哲学に区分し、それぞれをまた細区分するしかたであった。その中で、技術史や機械学などその後に発展した学問を提案している。また情報伝達の技術についても1巻を捧げている。《大革新》の第2部は自然研究の方法論で『[34]』と題されている。

問1 文章中の空欄[31]～[34]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[31] ① 人間の生活 ② 神の祝福 ③ 人間の知識 ④ 神の支配

[32] ① 類推 ② 帰納 ③ 類似 ④ 推論

[33] ① 法学 ② 歴史 ③ 医学 ④ 音楽

[34] ①ニュー・アトランティス ②人性論 ③統治論 ④ノヴム・オルガヌム

問2 文中の空欄[35]に入るロックの哲学用語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。【CG】

ロック認識論の基軸となる用語で、彼はこの用語法をデカルトから直接に学んだ。

[35]は「知性の直接の対象」すべてをさすとされ、そのなかには感覚与件、内省によって得られる心的所与、想像や記憶によるイメージ、抽象的[35]、そしてときに思考作用そのものも含むとされることもある。知識の真偽はこれら[35]の一致・不一致にありとする。問題点としては、[35]が意識内のなんらかの实在とすれば、それらの背後にあると想定される物的対象の認識には至りうるか否かである。この彼の観念の[35]を徹底したヒュームにおいて、イギリス経験論は懐疑論に陥ったとの批判がある。

① 概念 ② 記憶 ③ 存在 ④ 物体

問3 次のア・イは、ベーコンによるイドラについての説明であるが、それぞれ何と呼ばれているか。その組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[36] 【SHH】

ア 人間相互の交わりおよび社会生活から生じる偏見。例えば、人々の間を飛び交う不確かな噂を、事実であると信じ込むこと。

イ 個人の資質や境遇に囚われることから生じる偏見。例えば、自分が食べ慣れた好物を、誰もが好むに違いないと思込むこと。

- ① ア 種族のイドラ イ 劇場のイドラ
- ② ア 種族のイドラ イ 洞窟のイドラ
- ③ ア 市場のイドラ イ 劇場のイドラ
- ④ ア 市場のイドラ イ 洞窟のイドラ

問4 ベーコンによる従来 of 学問への批判を記述したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ [37] 【SHH】

- ① 従来 of 自然学ではさまざまな偏見によって正しい認識が妨げられてきた。だが、人間が自然を技術的に支配するためには、偏見を排し、実験や観察によって個々の経験的事実から一般的法則を発見することが必要である。
- ② 知識は人間生活から離れた不変 of 真理を捉えたものだとする偏見が、従来 of 学問を支配してきた。だが、知性は問題解決に役立つかぎりでのみ意味をもつ of ことから、知識は常に生活の中で試され改善されなければならない。
- ③ 哲学 of 仕事は世界を解釈することだという偏見に従来人々は囚われてきた。だが、大切なのは科学的認識によって世界を変えること of ことから、そうした実践的目的 of 基礎となるように哲学を作り変えなければならない。
- ④ 雄弁術や詩作は天賦 of 才に左右され、また従来 of 道徳論は徳 of 認識 of 仕方を教えない。だが、真偽を区別する理性 of 力は万人に平等に与えられているから、順序よく考えていけば、学問において誰でも正しい認識に達しうる。
- ⑤ 古代 of 学説を繰り返す、それに注釈をつけることが学問だとされてきた。だが、神は自然物を人間のために創った of ことから、神 of 意図 of 探求を自然研究 of 方法と合致させることによって、学問は生活に役立つものとなる。

問5 ロックについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38] 【SHH】

- ① 確実な原理を見いだすためにすべてのものを疑い、感覚や外界 of 実在はもちろん、数学的知識 of 確実性も疑った。
- ② あくまでキリスト教的な精神世界にとどまりながらも、貴族や教会 of 愚行を風刺して、人間 of 尊厳と自由意志を主張した。
- ③ 人間とは、無限に対しては虚無であり、虚無に対してはすべてであり、人間は無とすべてとの中間であると考えた。
- ④ 人間 of 心は白紙のようなもので何も書かれておらず、知識は経験によって得られるものであると考えた。

問6 バークリーについて説明した次の文の空欄 [39] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[39] 【SHH】

バークリーは《人知原理論》で、視覚対象は〈心の中〉に存在するにすぎないという主張を [39] 対象の全体に広げ、〈存在するとは [39] されること (esse est percipi)〉という命題を非物質論の根本原理として確立した。何ものも〈心の外〉には、すなわち [39] を離れては存在しないとすれば、もはや〈物質的実体〉の存在を認める余地はない、というのである。バークリー自身の哲学は〈観念すなわち実在〉の主張で終わるものではなかった。むしろ観念とはまったく別個な、あらゆる観念の存在を支える〈精神的実体〉こそ真実在である、というところにその眼目がある。バークリーにとって、世界は究極的には神の [39] にはかならない。

- ① 認識 ② 実在 ③ 知覚 ④ 視覚

問7 ヒュームが共感を論じた次の文章を読み、そこから導き出される見解として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[40] 【SHH】

私たちは、自分とは疎遠な人よりも自分に近い人に強く共感するし、見知らぬ人より知り合いに、外国人より同国人に強く共感する。……だが一方で、人や物事に対する私たちの状況は、絶えず変化している。だから、今は疎遠な間柄の人でも、少し時間が経てば、親しい知人になるかもしれない。そのうえ、それぞれの人が、他の人に対して独自の位置を占めている。だから、もしそれぞれが自分の特殊な見方に映るままに他の人の性格や人物を捉えるなら、私たちは筋の通った会話すらできないだろう。それゆえ、このような絶えざる矛盾を防ぎ、より安定した判断に達するために、私たちは何らかの不動で一般的な観点を定める。そして、物事を考える場合にはいつも、自分がおかれた現状から離れて、この観点到自分をおくのである。

(ヒューム『人間本性論』)

- ① 私たちは、見知らぬ国で貧困に苦しむ者には、身近なところで貧困に苦しむ者ほどには共感できない。だが、自分の見方が状況次第で変化するという事実を肯定すれば、見知らぬ者の大切さを認めることができる。
- ② 私たちは、身近なところで貧困に苦しむ者と比べて、見知らぬ国で貧困に苦しむ者には共感できない。だが、状況が変化して親しい知人になれば、共感容易になり、貧困について偏見を捨てて論じ合おうとする。
- ③ 私たちは、見知らぬ国で貧困に苦しむ者よりも、身近なところで貧困に苦しむ者に強く共感する。だが、貧困について論じる際には、共感の偏りに左右されない視点に立って意思の疎通をはかろうとする。
- ④ 私たちは、身近なところで貧困に苦しむ者については、共感しすぎてしまう。だが、遠く離れた見知らぬ国で貧困に苦しむ者については、自分たちがおかれた現状を離れて、冷静に論じることができる。

第5問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 20)

デカルトはその哲学体系を一本の木にたとえ、その根は形而上学、幹は自然学、枝は医学・機械学・道徳と考えた。このように形而上学は他の諸学を支え基礎づける〈第一哲学〉であって、そこでは神の存在、[41] と物質の存在ならびに両者の実在的区別が証明されるが、その形而上学的思索はまず〈方法的 [42] 〉から始まる。彼は絶対的に確実なものを求めてすべての感覚知を否定する。感覚はときとして人を欺くからである。一見明白な数学的真理も疑われる。邪悪な霊が人間を欺いているかもしれぬからである。しかしこのようにすべてを疑ったのちにも疑いえぬものがある。それは疑う私、すなわち〈考える私は在る〉という真理である。〈われ思う、ゆえにわれ在り Je pense, donc je suis; Cogito, ergo sum〉。

ついで [41] としての私の存在から神の存在が必然的に導き出される。すなわち疑う、不完全な私が自己の不完全性を自覚しうるのは私の中にすでに完全性の観念(生具観念)があるからだが、この完全性の観念は不完全な存在である私が創造しうるものではなく、私の外に実在する完全者すなわち神が私の精神に刻みつけた観念でしかありえないのである。このようにして今やその存在が確実となった神の [43] 性を根拠として、外界の存在もまた証明される。すなわち私の中には外なる物体についての多くの感覚的観念があり、私はこれらが外なる物体から来たと信じる自然的傾向をもつ。ところで [43] な神が私を欺くことはありえない以上、このことは私の外に物的な世界が実在することを示す。ただしこれら感覚的観念の表象的内容自体は物体の真の姿を表すものではなく、物体の本質は [41] がそれについて明晰判明に理解する [44] 以外にありえないのである。

問1 文章中の空欄 [41] ~ [44] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[41] ① 原子 ② 単子 ③ 精神 ④ 良心

[42] ① 懐疑 ② 発見 ③ 独断 ④ 推理

[43] ① 超越 ② 誠実 ③ 万能 ④ 慈愛

[44] ① 思考 ② 空間 ③ 時間 ④ 延長

問2 デカルトの説く「情念」の説明として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[45] 【CG】

- ① 根拠のないあらゆるドクサを排除しようという心
- ② 身体の働きかけを受ける精神の受動
- ③ 何ものにも煩わされない自己充足の境地
- ④ 強い克己心による超然とした無感動の境地

問3 デカルトが真理の基準とした「明晰判明」を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[46]【SHH】

- ① 明晰とは、事物が細かいところまで確実に分析されることであり、判明とは、事物の構造がどのようになっているか把握されることである。
- ② 明晰とは、事物が疑いようもなくはっきりと認識されることであり、判明とは、事物が他のものから紛れもなく区別されることである。
- ③ 明晰とは、事物が最も認識しやすい単純な側面から捉えられることであり、判明とは、事物に対する最も複雑な理解へと思考が総合されることである。
- ④ 明晰とは、事物の性質が余すところなく枚挙されることであり、判明とは、事物がもつそれらの性質が全体として見渡されることである。

問4 17世紀後半のオランダで、キリスト教やユダヤ教の正統派の立場から異端とみなされたスピノザの思想の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47]【SHH】

- ① 無限実体である神から区別された有限実体は、思惟を属性とする精神と、空間的な広がりである延長を属性とする物体から成り、精神と物体は互いに独立に実在する。
- ② 事物の究極的要素は、非物体的で精神的な実体としてのモナド（单子）であり、神はあらかじめ、無数のモナドの間に調和的秩序が存在するように定めている。
- ③ 神は人間に自己の生き方を自由に選択できる能力を与えたのであり、人間は自由意志によって、動物に墮落することも、神との合一にまで自己を高めることもできる。
- ④ 自然は無限で唯一の実体である神のあらわれであり、人間の最高の喜びは、神によって必然的に定められたものである事物を、永遠の相のもとに認識することにある。

問5 実体について考察したライプニッツの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]【SHH】

- ① 実体とは不滅の原子のことであり、世界は原子の機械的な運動によって成り立っていると考えた。
- ② 存在するとは知覚されることであるとして、物体の実体性を否定し、知覚する精神だけが実在すると考えた。
- ③ 世界は分割不可能な無数の精神的実体から成り立っており、それらの間にはあらかじめ調和が成り立っていると考えた。
- ④ 精神と物体の両方を実体とし、精神の本性は思考であり、物体の本性は延長であると考えた。

問6 次の文の説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[49]【SHH】

主観と訳されるラテン語 *subiectum* (英語 *subject*) の原義は〈基体〉〈主語〉で、元来ギリシア語ヒュポケイメノンの訳。一方、客観と訳されるラテン語 *obiectum* (英語 *object*) の原義は〈前方に投げられてあるもの〉、すなわち表象ないし観念の意。すなわち、少なくとも前近代では、両語は現在とは逆の意味で用いられていた。転換を画したのがデカルトで、自我を基体・実体と規定して *subiectum* を主観化し、*obiectum* を客観化した。

対立・逆転の構図を完成したのがカント。認識の形式的条件としての主観、その主観の対象としての客観が定立され、前者の優位、前者による後者の支配が根拠づけられることになった。その構図の歴史的被制約性の自覚と限界の克服が、たとえば現象学、実存主義（とりわけハイデッガー）、構造主義など、20世紀思想の主要な課題である。なお、主観・客観は実践論の場面では〈主体・客体〉と言い換えられることがある。

- ① もともと *subject* は「それ自体で存在する基体、主語」という意味だった。
- ② もともと *object* は「観念によって表現されたもの」という意味だった。
- ③ デカルトとカントが、客観的对象によって主観的観念が支配されることを示した。
- ④ 現象学や実存主義、構造主義は主観と客観の概念規定を乗り越えようとした。

問7 次の文が示す概念として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[50]

「定理 17 備考」では、無限であり絶対的に完全であるはずの神が、現存するものとは別様な様態を、言いかえれば、様態の生起の間接原因である属性が現状と別様であることを考えることは、三角形の本性からその三つの角の総和が二直角に等しいことにならないと考えることと同じくらいに不条理である。というのも、そのように考える者は、全能である神が、無限に多くの創造可能なものを認識していながら、それを決して創造しえないでいると認めており、その結果、神は一切を創造してしまえば、自己の全能を使い果たして不完全になると主張しているからである。そしてその結果、神は自己の能力が及びうるすべてをなすことができないことになり、神が完全でなくなってしまう。ゆえに、「神は一切のものの内因的原因であって超越的原因ではない。……存在するものはすべて、神のうちにあり、神によって把握されねばならない」(E1P18)。

- ① 決定論
- ② 汎神論
- ③ 予定説
- ④ 懐疑論

問題は以上です。